

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 1年</p>	<p>〔講義期間〕 前期</p>
<p>〔教育内容〕 実習</p>	<p>〔科目名〕 整体基礎実技Ⅰ</p>
<p>〔時間、単位数〕 60時間 4単位</p>	<p>〔担当教員〕 高良 勝巳（実務経験あり）</p>
<p>〔授業の目的〕 整体セラピストとしての自身の心のあり方と患者に対して最高の施術ができるようにする。</p> <p>〔授業の概要〕 整体基本動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】指圧法の基本手技 【第2回】指圧法の基本手技 【第3回】背部指圧 【第4回】殿部指圧 【第5回】下肢後部 【第6回】足底部 【第7回】肩部 【第8回】頸部 【第9回】頭部 【第10回】顔 【第11回】下肢前面 【第12回】上肢 【第13回】腹部 【第14回】実技テスト 【第15回】実技テスト <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 出席率・・・10% 授業態度・・・10% 実技テスト・・・80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 指圧・マッサージ実技教本</p>

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>																														
<p>[年次]</p> <p>1年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>前期</p>																														
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>整体臨床実技Ⅰ</p>																														
<p>[時間、単位数]</p> <p>60時間 4単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>山川 宗治（実務経験あり）</p>																														
<p>[授業の目的]</p> <p>整体セラピストとしての自身の心のあり方と患者に対して最高の施術ができるようにする。実際に痛めている患者で、臨床実技を行い実践指導し即戦力としての指導を行う。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>整体基本動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。実際に臨床例の講義を行い筋肉と骨の違いを理解させ、骨を支える靭帯と骨を動かす腱の施術を行う。</p>																															
<p>[授業内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">【第1回】講義：基本操作の練習</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第2回】講義：整体セラピスト自身の考え方</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第3回】講義：整体セラピストとしての施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第4回】講義：（神経・骨格・内分泌）の施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第5回】講義：患者への具体的なアプローチ方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第6回】講義：基本的な施術者自身の身体のかい方</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第7回】講義：偏頭痛、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第8回】講義：めまい、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第9回】講義：首が痛い、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第10回】講義：肩が痛い、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第11回】講義：手がしびれる、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第12回】講義：足がしびれる、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第13回】講義：冷え性、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第14回】講義：関節が痛い、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第15回】講義：猫背、原因筋の確認方法（足と足首）</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> </table> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。また定期的の実技テストを行う。</p>		【第1回】講義：基本操作の練習	実技：整体基本操作	【第2回】講義：整体セラピスト自身の考え方	実技：整体基本操作	【第3回】講義：整体セラピストとしての施術方法	実技：整体基本操作	【第4回】講義：（神経・骨格・内分泌）の施術方法	実技：整体基本操作	【第5回】講義：患者への具体的なアプローチ方法	実技：整体基本操作	【第6回】講義：基本的な施術者自身の身体のかい方	実技：整体基本操作	【第7回】講義：偏頭痛、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第8回】講義：めまい、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第9回】講義：首が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第10回】講義：肩が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第11回】講義：手がしびれる、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第12回】講義：足がしびれる、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第13回】講義：冷え性、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第14回】講義：関節が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第15回】講義：猫背、原因筋の確認方法（足と足首）	実技：整体基本操作
【第1回】講義：基本操作の練習	実技：整体基本操作																														
【第2回】講義：整体セラピスト自身の考え方	実技：整体基本操作																														
【第3回】講義：整体セラピストとしての施術方法	実技：整体基本操作																														
【第4回】講義：（神経・骨格・内分泌）の施術方法	実技：整体基本操作																														
【第5回】講義：患者への具体的なアプローチ方法	実技：整体基本操作																														
【第6回】講義：基本的な施術者自身の身体のかい方	実技：整体基本操作																														
【第7回】講義：偏頭痛、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第8回】講義：めまい、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第9回】講義：首が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第10回】講義：肩が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第11回】講義：手がしびれる、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第12回】講義：足がしびれる、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第13回】講義：冷え性、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第14回】講義：関節が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第15回】講義：猫背、原因筋の確認方法（足と足首）	実技：整体基本操作																														
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 授業態度…10%</p> <p>実技テスト…80%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>NPO法人日本セラピスト協会認定図書</p> <p>「整体セラピストになる」</p>																														

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 1年</p>	<p>〔講義期間〕 前期</p>
<p>〔教育内容〕 実習</p>	<p>〔科目名〕 整体理論と実技Ⅰ</p>
<p>〔時間、単位数〕 60時間 4単位</p>	<p>〔担当教員〕 新川 慶（実務経験あり）</p>
<p>〔授業の目的〕 人体を理解するため、基礎医学である人体各部の構造を暗記し理解する。 整体セラピストとしての自身の心のあり方と患者に対して最高の施術ができるようにする。</p> <p>〔授業の概要〕 重要事項や解剖用語を説明し、人体模型を駆使し、 テキストに基づいたオリジナルプリントを使用し、授業を行う。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】講義：オリエンテーション 【第2回】講義：全身の骨格プリント 【第3回】講義：ナビゲーション1（肩甲骨、鎖骨、上腕骨）の各名称を覚える 【第4回】実技：ナビゲーション1を実際にパートナーと触診する 【第5回】講義：ナビゲーション2（橈骨、尺骨、手根骨）の各名称を覚える 【第6回】実技：ナビゲーション2を実際にパートナーと触診する 【第7回】講義：ナビゲーション3（椎体、胸骨、肋骨）の各名称を覚える 【第8回】実技：ナビゲーション3を実際にパートナーと触診する 【第9回】講義：ナビゲーション4（頭部）の各名称を覚える 【第10回】実技：ナビゲーション4を実際にパートナーと触診する 【第11回】講義：ナビゲーション5（骨盤、大腿骨、仙骨、尾骨）の各名称を覚える 【第12回】実技：ナビゲーション5を実際にパートナーと触診する 【第13回】講義：ナビゲーション6（膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨）の各名称を覚える 【第14回】講義：ナビゲーション6を実際にパートナーと触診する 【第15回】講義：テスト</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 出席率・・・10% 授業態度・・・10% テスト・・・80%</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 NPO法人日本セラピスト協会認定図書 「整体セラピストになる」</p>

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 1年</p>	<p>〔講義期間〕 前期</p>
<p>〔教育内容〕 講義</p>	<p>〔科目名〕 アロマセラピーⅠ</p>
<p>〔時間、単位数〕 30時間 2単位</p>	<p>〔担当教員〕 島袋 直美（実務経験あり）</p>
<p>〔授業の目的〕 アロマセラピーは、専門家や医師の臨床研究により、疾病改善や健康維持、美容分野での有効性は高く評価されてきました。ストレス社会といわれる背景に、職場や家庭環境での人間関係の綻れが精神的ダメージとなり、健康を害する要因といわれています。アロマセラピーで用いる精油（香り）を通して、自分自身に向き合う環境を作り、ホリスティック（心・体・精神）にアプローチしていく方法を学び、ライフスタイルの見直しを提供できる技術者を育成する。</p> <p>〔授業の概要〕 アロマセラピー基礎知識を学び、アロマグッズや生活用品を通して、生活環境の変化を楽しみながら実践、調合法を学習する。また、心・体の症状に合わせた調合法を学び、精油の吸収経路（経肺的・経皮的・経口的）の理解を深める。</p>	
<p>〔授業内容〕 【第1回】授業内容説明 【第2回】アロマセラピーについて 【第3回】精油について 【第4回】香りの分類、実習 【第5回】精油の相性、実習（オリジナル香水） 【第6回】アロマセラピーの歴史①（植物療法のはじまり） 【第7回】アロマセラピーの歴史② 【第8回】ホリスティックについて 【第9回】精油の効果について 【第10回】アロマセラピー利用法（芳香浴法、吸入法、入浴法） 【第11回】アロマセラピー利用法（湿布法、トリートメント法） 【第12回】精油の製造法（水蒸気蒸留法、圧搾法、溶剤抽出法） 【第13回】精油の製造法（水蒸気蒸留法、圧搾法、溶剤抽出法） 【第14回】精油の品質評価、使い方と注意、選び方と取り扱い方 【第15回】筆記試験</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 出席率…10% 授業態度…10% 筆記試験…80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 ホリスティックアロマセラピー</p>

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和1年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">1年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">前期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">ウエイトトレーニングⅠ</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30時間 2単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">岡山 奨 (実務経験あり)</p>
[授業の目的] <ul style="list-style-type: none"> ・安全で効果的なトレーニングを提供するための基礎（エクササイズ名、使用筋群、動作）を主に実技中心で覚えていく。 [授業の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・レジスタンスエクササイズを理解し、指導が行えるまでにする。 ・NSCA JAPAN ストレングス&コンディショニングⅡのテキストを用い授業を進め、出席・テストにて評価を行う。 	
[授業内容] 【第1回】オリエンテーション 【第2回】トレーニングとは？なぜ必要とされているか？（トレーニングを覚えよう） 【第3回】フリーウエイトとマシントレーニング、自体重トレーニング 【第4回】トレーニングの原理・原則、身体主要部位の呼称 【第5回】筋の収縮様式、負荷の設定方法 ～ミニテスト～ 【第6回】バックスクワット、デットリフト 【第7回】フォワードランジ、サイドランジ、カーフレイズ 【第8回】ベンチプレス、ダンベルベンチプレス、ダンベルフライ 【第9回】ベントオーバーロウ、ラットプルダウン、プルオーバー 【第10回】バックエクステンション、クランチ、シットアップ、レッグレイズ、プローンブリッジ、サイドブリッジ 【第11回】フロントショルダープレス（ダンベル）、サイドレイズ、アップライトロウ 【第12回】アームカール、ライイングトライセプスエクステンション、トライセプスプッシュダウン、フレンチプレス 【第13回】リストカール、リストエクステンション、プロネーション、スピネーション 【第14回】テスト 【第15回】テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率・・・10% 授業態度・・・10% 実技テスト・・・80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] NSCA JAPAN ストレングス&コンディショニングⅡテキスト

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">1 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">前期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">講義</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">機能解剖学 I</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">新川 慶 (実務経験あり)</p>
[授業の目的] 身体運動に関する骨と筋肉の名称、関節のしくみなどを理解する。 筋肉の種類や関節を動かす筋についても理解し、動作分析やリハビリテーション、テーピングにつなげる。整体実技、リンパマッサージ、アロママッサージの基礎とする。 [授業の概要] 骨格、筋、関節の動きなどを学ぶため、骨格モデルや映像などを駆使して授業を行う。 テキストに基づいたオリジナルプリントで学習を進めていく。	
[授業内容] 【第 1 回】オリエンテーション・授業内容・評価方法 【第 2 回】脊柱の構造 【第 3 回】胸郭・肩甲帯 【第 4 回】肩関節 【第 5 回】肘関節・橈尺関節 【第 6 回】手関節・手 【第 7 回】上肢のまとめ 【第 8 回】中間テスト 【第 9 回】テスト回答・解説 【第 10 回】股関節・骨盤帯 【第 11 回】膝関節 【第 12 回】足関節・足 【第 13 回】下肢のまとめ 【第 14 回】期末テスト 【第 15 回】テスト回答・解説 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率・・・10% 授業態度・・・10% 中間テスト・・・40% 期末テスト・・・40% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 身体運動の機能解剖学

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 1年</p>	<p>〔講義期間〕 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講義</p>	<p>〔科目名〕 運動生理学</p>
<p>〔時間、単位数〕 30時間 2単位</p>	<p>〔担当教員〕 伊差川 友紀（実務経験あり）</p>
<p>〔授業の目的〕 運動する際の身体の各器官における役割や運動に伴う応答、変化について、基礎的な知識をつけることを目的とする。</p> <p>〔授業の概要〕 運動時に必要とされる身体の各器官の役割や運動に伴う各器官の変化について学ぶ。本講義のなかで、運動指導者として必要な運動生理学の基本的知識を身につけ、適切な運動処方ができるようになることを期待する。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】筋収縮 【第2回】エネルギー供給系 【第3回】筋収縮様式, 【第4回】筋活動様式 【第5回】神経系の役割 【第6回】運動と循環 【第7回】運動と呼吸 【第8回】中間テスト 【第9回】運動とホルモン 【第10回】身体組成と肥満 【第11回】運動処方 【第12回】運動と生活習慣病 【第13回】運動と体温調整 【第14回】筋疲労の要因 【第15回】期末テスト <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 中間テスト…40% 期末テスト…40% 出席率…10% 授業態度…10% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 入門運動生理学</p>

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー 学科</p>
<p>[年次]</p> <p>1年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>前期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>講義</p>	<p>[科目名]</p> <p>解剖生理学</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>新川 慶（実務経験あり）</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>人体を理解するため、基礎医学である人体各部の構造を暗記し理解する。 前期：人体を構成する細胞レベルから組織→器官（臓器）の構成レベルを理解し、機能へと導くための準備を行う。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>重要事項や解剖用語を説明し、人体模型や映像を駆使し、テキストにもとづいたオリジナルプリントを使用し、授業を行う。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>【第1回】：オリエンテーション、解剖学とは・生理学とは 【第2回】：人体の区分と細胞の名称（働き） 【第3回】：血液系（血液の種類と働き） 【第4回】：呼吸器系（咽頭喉頭、気管・気管支・肺の構造） 【第5回】：呼吸器系（呼吸筋、腹式と胸式呼吸の違い） 【第6回】：循環器系（心臓の構造） 【第7回】：循環器系（心臓の働き・心電図・心音とは） 【第8回】：泌尿器系（腎臓の構造と仕組み、尿管と排尿） 【第9回】：消化器系（消化とは、口腔と食道） 【第10回】：消化器系（胃の構造と働き） 【第11回】：内分泌系（ホルモンとは）生殖器系（生殖機能） 【第12回】：神経系（神経細胞の構造、脊髄神経とは） 【第13回】：感覚器系（見る仕組み、聞く仕組み） 【第14回】：体温調節とは・・・ 前期まとめ 【第15回】：テスト</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2回に分けて講義することになる。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率・・・10% 授業態度・・・10% テスト・・・80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>解剖生理をおもしろく学ぶ</p>

授 業 概 要

[年度] 令和1年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1年	[講義期間] 前期
[教育内容] 講義	[科目名] 健康づくり論
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 岡山 奨 (実務経験あり)
[授業の目的] 現在までの世界や日本の健康づくり施策について知り、現代の健康問題について学ぶ。そして将来、地域の健康づくりを担う運動指導者として必要な基本的知識を身につける。 [授業の概要] 健康運動実践指導者テキストに沿ったオリジナルプリントにて進めていく。	
[授業内容] 【第1回】オリエンテーション・授業、評価について 【第2回】健康と健康増進の概念 【第3回】我が国の健康づくり施策 【第4回】生活習慣病 【第5回】介護予防 【第6回】メディカルチェック 【第7回】中間テスト 【第8回】筋の仕組み、特性 【第9回】筋線維タイプ 【第10回】運動神経 【第11回】筋力の決定要因 【第12回】反射 【第13回】スポーツ動作を考える① 【第14回】スポーツ動作を考える② 【第15回】期末テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率・・・10% 授業態度・・・10% 中間テスト・・・40% 期末テスト・・・40% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 健康運動実践指導者養成用テキスト

授 業 概 要

[年度] 令和1年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1年	[講義期間] 前期
[教育内容] 実習	[科目名] ストレッチの基礎
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 大山 敦史 (実務経験あり)
[授業の目的] パッシブスタティックストレッチの効果と実施方法を習得する。 [授業の概要] 各部位へのストレッチの実施方法を学ぶ。その上でパッシブスタティックストレッチの特性や効果を理解し、適切な指導力を身につけることを目的とする。	
[授業内容] 【第1回】オリエンテーション 自己紹介、授業の流れ、成績評価の方法を説明する 【第2回】実施上の注意、ストレッチを行う上での注意点 下肢のストレッチ：ひふく筋・ヒラメ筋・ハムストリングス（外側・内側） 【第3回】下肢のストレッチ：前回の復習・大殿筋・中殿筋・内転筋（単関節筋・二関節筋） 【第4回】下肢のストレッチ：前回の復習・大腿四頭筋・大腿筋膜張筋・腸腰筋 【第5回】下肢のストレッチ：前回の復習・前脛骨筋 【第6回】下肢のストレッチ：復習 【第7回】下肢のストレッチ：テスト（各筋のストレッチが実践できているか） 【第8回】上肢のストレッチ：大胸筋（中部・下部・上部）・僧帽筋（上部・中部・下部） 【第9回】上肢のストレッチ：前回の復習・上腕二頭筋・上腕三頭筋 【第10回】上肢のストレッチ：前回の復習・前腕伸筋群・前腕屈筋群 【第11回】上肢のストレッチ：前回の復習・広背筋・腰方形筋 【第12回】上肢のストレッチ：復習 【第13回】上肢のストレッチ：テスト（各筋のストレッチが実践できているか） 【第14回】関節モビリゼーション・下肢・上肢のストレッチの復習 【第15回】関節モビリゼーション・下肢・上肢のストレッチの復習 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 授業態度・・・10% 出席率・・・10% 実技テスト・・・80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] ストレッチ完全マニュアル=下肢編= ストレッチ完全マニュアル=上肢編=

授 業 概 要

[年度] 令和1年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1年	[講義期間] 前期
[教育内容] 講義	[科目名] 発育・発達論
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 宜野座 康秀（実務経験あり）
[授業の目的] 人間の発育・発達過程について理解し、将来、各年代に応じた運動指導ができるようになる。 [授業の概要] ヒトが生まれてから成長、発達、老化を経ていく過程で、体にどのような変化が起こっているのかを科学的に理解し、各時期における運動刺激の効果及び影響を学習する	
[授業内容] 【第1回】体格の発達と運動 【第2回】体格の発達と運動 【第3回】体力の発達過程と運動 【第4回】体力の発達過程と運動 【第5回】体力の発達過程と運動 【第6回】動作のスキルの向上の過程 【第7回】動作のスキルの向上の過程 【第8回】中間テスト 【第9回】加齢に伴う体力の低下 【第10回】加齢に伴う体力の低下 【第11回】加齢に伴う体力の低下 【第12回】一般人における 【第13回】運動の効果 【第14回】年齢に応じた適切な運動の質と量 【第15回】期末テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 授業態度…10% 課題提出…10% 中間テスト…35% 期末テスト…35% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 講師作成資料

授 業 概 要

[年度] 令和1年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1年	[講義期間] 前期
[教育内容] 講義	[科目名] スポーツ心理学
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 増澤 拓也
[授業の目的] 将来、運動指導の場で効果的な指導ができるよう、スポーツに関わる者の心理状態や心理的特性について理解する。 運動実践によって得られる心理的効果の内容とその効果を高める要因を理解する。 [授業の概要] 授業前半は、自分のスポーツ経験をふり返ることや目標設定の実践等を通して、自己についての理解を深める。後半はスポーツをする人や見る人、競技者の心理を学び、将来、運動指導の場で適切な指導ができるよう、スポーツ心理の知識や理論を理解する。	
[授業内容] 【第1回】オリエンテーション、授業の流れ 【第2回】スポーツの目的・学習理論 【第3回】メンタルトレーニングとは 【第4回】目標設定・目標設定の実践 【第5回】ポジティブシンキング 【第6回】スポーツをする楽しさ 【第7回】スポーツを見る楽しさ 【第8回】個性とスポーツ 【第9回】スポーツ集団の心理 【第10回】競技者の心理 【第11回】あがり・バーンアウト 【第12回】つながっている心と体 【第13回】運動実践と社会 運動継続と心理的効果 【第14回】行動変容・個別指導と動機付け 【第15回】テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率・・・10% 授業態度・・・10% テスト・・・80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 運動指導の心理学 健康運動実践指導者養成用テキスト

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 1年</p>	<p>〔講義期間〕 前期</p>
<p>〔教育内容〕 実習</p>	<p>〔科目名〕 体力測定評価法</p>
<p>〔時間、単位数〕 15時間 1単位</p>	<p>〔担当教員〕 比嘉 充人（実務経験あり）</p>
<p>〔授業の目的〕 正しい体力の測定法・評価法を理解し、各体力を正確に測定する方法および技能を身につける。実際に自らの体力測定評価も行うことで、実技を通しながら体力測定評価について学ぶ。</p> <p>〔授業の概要〕 各体力の正しい測定法を理解し、実践する。また測定結果から何を知り、体力の向上や健康増進にどう活かせるかを考える。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】オリエンテーション</p> <p>【第2回】身体組成の測定</p> <p>【第3回】新体力テスト①（長座体前屈・反復横とび・上体起こし）</p> <p>【第4回】新体力テスト②（立ち幅とび・20mシャトルラン）</p> <p>【第5回】新体力テスト③（50m走・ハンドボール投げ）</p> <p>【第6回】新体力テストについて（座学）①</p> <p>【第7回】新体力テストについて（座学）②</p> <p>【第8回】テスト</p> <p>天候等により、実施順番に変更のある場合がある。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 出席率…10% 授業態度…10% 提出物…10% テスト…70% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 健康運動実践指導者養成用テキスト</p>

授 業 概 要

[年度] 令和 1 年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1 年	[講義期間] 後期
[教育内容] 実習	[科目名] 救急処置法
[時間、単位数] 1 5 時間 1 単位	[担当教員] 安里 常要 (実務経験あり)
[授業の目的] 心肺蘇生術における基礎的な知識を養い、また熱中症などの応急処置などを理解させる。心肺蘇生法 (CPR) や包帯、三角巾での応急処置を実習する。内科的、外科的な応急処置の実際を講義していく。 [授業の概要] 心肺蘇生法、怪我の処置等、一次救命処置・応急処置について学ぶ	
[授業内容] 【第 1 回】 授業内容の説明、胸骨圧迫と人工呼吸 【第 2 回】 熱中症と過換気、AED を用いての心肺蘇生法 【第 3 回】 筆記試験、(成人の) 心肺蘇生法 【第 4 回】 (成人の) 心肺蘇生法 【第 5 回】 止血と固定 【第 6 回】 (新生児・小児の) 心肺蘇生法 【第 7 回】 実技試験 【第 8 回】 実技試験 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 全 8 回の内 6 回以上の出席かつ総合得点 70 点以上で単位認定。 総合得点 (100 点) = (筆記試験 50 点 + 実技試験 50 点) - 欠席数 × 10 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 健康運動実践指導者養成テキスト

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">1 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">後期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">整体基礎実技Ⅱ</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">60時間 4単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">高良 勝巳（実務経験あり）</p>
[授業の目的] <p>整体セラピストとしての自身の心のあり方と患者に対して最高の施術ができるようにする。</p> [授業の概要] <p>整体基本動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。</p>	
[授業内容] 【第 1 回】 整体の基本手技 【第 2 回】 上肢 【第 3 回】 足部 【第 4 回】 下腿部 【第 5 回】 大腿部 【第 6 回】 殿部 【第 7 回】 背腰部 【第 8 回】 頸部 【第 9 回】 頭部 【第 10 回】 顔面部 【第 11 回】 胸部 【第 12 回】 腹部 【第 13 回】 関節のマッサージ 【第 14 回】 実技テスト 【第 15 回】 実技テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席・・・10% 授業態度・・・10% 実技テスト・・・80%	[使用テキスト、参考文献] 指圧・マッサージ実技教本

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>																														
[年次] <p style="text-align: center;">1 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">後期</p>																														
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">整体臨床実技Ⅱ</p>																														
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">60時間 4単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">山川 宗治 (実務経験あり)</p>																														
[授業の目的] <p>整体セラピストとしての自身の心のあり方と患者に対して最高の施術ができるようにする。実際に痛めている患者で、臨床実技を行い実践指導し即戦力としての指導を行う。</p> [授業の概要] <p>整体基本動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。 実際に臨床例の講義を行い筋肉と骨の違いを理解させ、骨を支える靭帯と骨を動かす腱の施術を行う。</p>																															
[授業内容] <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">【第 1 回】講義：背中の痛み、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 2 回】講義：胸の痛み、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 3 回】講義：腰が痛い、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 4 回】講義：股関節が痛い、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 5 回】講義：膝が痛い、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 6 回】講義：足が痛い、原因筋の確認方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 7 回】講義：片頭痛・めまいに対する施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 8 回】講義：頸椎の運動障害に対する施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 9 回】講義：肩関節の運動障害に対する施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 10 回】講義：肘関節の運動障害に対する施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 11 回】講義：手首の運動障害に対する施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 12 回】講義：腰の運動障害に対する施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 13 回】講義：股関節の運動障害に対する施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 14 回】講義：膝関節の運動障害に対する施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第 15 回】講義：足関節の運動障害に対する施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> </table> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。また定期的に実技テストを行う。</p>		【第 1 回】講義：背中の痛み、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第 2 回】講義：胸の痛み、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第 3 回】講義：腰が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第 4 回】講義：股関節が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第 5 回】講義：膝が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第 6 回】講義：足が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作	【第 7 回】講義：片頭痛・めまいに対する施術方法	実技：整体基本操作	【第 8 回】講義：頸椎の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作	【第 9 回】講義：肩関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作	【第 10 回】講義：肘関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作	【第 11 回】講義：手首の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作	【第 12 回】講義：腰の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作	【第 13 回】講義：股関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作	【第 14 回】講義：膝関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作	【第 15 回】講義：足関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作
【第 1 回】講義：背中の痛み、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第 2 回】講義：胸の痛み、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第 3 回】講義：腰が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第 4 回】講義：股関節が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第 5 回】講義：膝が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第 6 回】講義：足が痛い、原因筋の確認方法	実技：整体基本操作																														
【第 7 回】講義：片頭痛・めまいに対する施術方法	実技：整体基本操作																														
【第 8 回】講義：頸椎の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作																														
【第 9 回】講義：肩関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作																														
【第 10 回】講義：肘関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作																														
【第 11 回】講義：手首の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作																														
【第 12 回】講義：腰の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作																														
【第 13 回】講義：股関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作																														
【第 14 回】講義：膝関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作																														
【第 15 回】講義：足関節の運動障害に対する施術方法	実技：整体基本操作																														
[単位認定の方法及び基準] 出席・・・10% 授業態度・・・10% 実技テスト・・・80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] NPO法人日本セラピスト協会認定図書 「整体セラピストになる」																														

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">1 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">後期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">整体理論と実技Ⅱ</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">60時間 4単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">新川 慶（実務経験あり）</p>
[授業の目的] 人体を理解するため、基礎医学である人体各部の構造を暗記し理解する。 整体セラピストとしての自身の心のあり方と患者に対して最高の施術ができるようにする。 [授業の概要] 重要事項や解剖用語を説明し、人体模型を駆使し、テキストに基づいたオリジナルプリントを使用し、授業を行う。	
[授業内容] 【第1回】講義：オリエンテーション 【第2回】講義：全身の骨格筋プリント 【第3回】講義：ナビゲーション1（体幹筋、上肢帯筋）の各名称を覚える 【第4回】実技：ナビゲーション1を実際にパートナーと触診する 【第5回】講義：ナビゲーション2（上腕筋）の各名称を覚える 【第6回】実技：ナビゲーション2を実際にパートナーと触診する 【第7回】講義：ナビゲーション3（前腕筋、手の筋）の各名称を覚える 【第8回】実技：ナビゲーション3を実際にパートナーと触診する 【第9回】講義：ナビゲーション4（下肢帯筋）の各名称を覚える 【第10回】実技：ナビゲーション4を実際にパートナーと触診する 【第11回】講義：ナビゲーション5（大腿筋）の各名称を覚える 【第12回】実技：ナビゲーション5を実際にパートナーと触診する 【第13回】講義：ナビゲーション6（下腿筋、足の筋）の各名称を覚える 【第14回】講義：ナビゲーション6を実際にパートナーと触診する 【第15回】講義：テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席・・・10% 授業態度・・・10% テスト・・・80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] NPO法人日本セラピスト協会認定図書 「整体セラピストになる」

授 業 概 要

[年度] 令和 1 年度	[学科名] スポーツ整体メディカルトレーナー学科
[年次] 1 年	[講義期間] 後期
[教育内容] 実習	[科目名] アロマセラピーⅡ
[時間、単位数] 30 時間 2 単位	[担当教員] 島袋 直美 (実務経験あり)
[授業の目的] アロマセラピーは、専門家や医師の臨床研究により、疾病改善や健康維持、美容分野での有効性は高く評価されてきました。ストレス社会といわれる背景に、職場や家庭環境での人間関係の綻れが精神的ダメージとなり、健康を害する要因といわれています。アロマセラピーで用いる精油（香り）を通して、自分自身に向き合う環境を作り、ホリスティック（心・体・精神）にアプローチしていく方法を学び、ライフスタイルの見直しを提供できる技術者を育成する。 [授業の概要] アロマセラピー基礎知識を学び、アロマグッズや生活用品を通して、生活環境の変化を楽しみながら実践、調合法を学習する。また、心・体の症状に合わせた調合法を学び、精油の吸収経路（経肺的・経皮的・経口的）の理解を深める。	
[授業内容] 【第 1 回】 授業内容説明 【第 2 回】 精油の吸収経路（経肺的、経皮的、経口的） 【第 3 回】 アロマセラピーに関する法律について 【第 4 回】 アロマセラピーの定義について 【第 5 回】 アラマセラピーと代替医療、メディカルアロマセラピー 【第 6 回】 ホリスティックアロマセラピー、サイコ(心理)アロマセラピー 【第 7 回】 免疫力を高めるライフスタイルについて 【第 8 回】 キャリアオイルの種類について 【第 9 回】 チャクラワークⅠ（肉体、心、精神のすべてを癒す健康法） 【第 10 回】 チャクラワークⅠ（肉体、心、精神のすべてを癒す健康法） 【第 11 回】 チャクラワークⅡ（生命エネルギー、内分泌系と神経系の関係） 【第 12 回】 チャクラワークⅡ（生命エネルギー、内分泌系と神経系の関係） 【第 13 回】 チャクラワークⅢ（自己対談・パターンを知る） 【第 14 回】 チャクラワークⅢ（自己対談・パターンを知る） 【第 15 回】 テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 授業態度…10% 出席率…10% テスト…80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] ホリスティックアロマセラピー

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">1 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">後期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">ウエイトトレーニングⅡ</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30時間 2単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">岡山 奨（実務経験あり）</p>
[授業の目的] 補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解させる。 目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導方法を学ばせる。 [授業の概要] レジスタンスエクササイズを理解し、指導が行えるまでにする。 NSCA JAPAN ストレングス&コンディショニングⅡテキストを用い授業を進め、出席・テストにて評価を行う。	
[授業内容] 【第1回】オリエンテーション 【第2回】前期復習 【第3回】マシントレーニングの種類について・実施・指導方法 【第4回】マシントレーニングの種類について・実施・指導方法 【第5回】マシントレーニングの種類について・実施・指導方法 【第6回】マシントレーニングの種類について・実施・指導方法 【第7回】サーキットトレーニングについて 【第8回】サーキットトレーニングについて 【第9回】インターバルトレーニングについて 【第10回】チューブトレーニングについて 【第11回】バランス強化トレーニングについて 【第12回】プライオメトリックトレーニングについて 【第13回】プログラミング 【第14回】プログラミング 【第15回】テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席・・・10% 授業態度・・・10% テスト・・・80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] NSCA JAPAN ストレングス&コンディショニングⅡテキスト

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和1年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">1年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">前期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">講義</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">スポーツ栄養学</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30時間 2単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">天久 克志 (実務経験あり)</p>
[授業の目的] スポーツ選手や健康増進のために必要な栄養について理解し、適切なアドバイスができるようになる。 [授業の概要] 五大栄養素や各栄養素の役割について理解させ運動時の栄養摂取法について理解する。	
[授業内容] 【第1回】オリエンテーション 【第2回】5大栄養素 【第3回】炭水化物 【第4回】脂質 【第5回】タンパク質 【第6回】ビタミン・ミネラル 【第7回】消化・吸収 【第8回】中間テスト 【第9回】エネルギー代謝① 【第10回】エネルギー代謝② 【第11回】アスリートに必要な栄養摂取① 【第12回】アスリートに必要な栄養摂取② 【第13回】試合前・当日・試合後の食事 【第14回】期末テスト 【第15回】総復習 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 中間試験・・・40% 期末試験・・・40% 授業態度・・・10% 出席率・・・10%	[使用テキスト、参考文献] 基礎から学ぶスポーツ栄養学

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和1年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">1年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">後期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">講義</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">スポーツ傷害</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30時間 2単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">大城 一之 (実務経験あり)</p>
[授業の目的] スポーツで起こる障害について学び、障害の予防や障害を持つクライアントに対する指導ができるようにする。 [授業の概要] 内科的障害、整形外科的な障害と外傷について理解し、対処方法や予防方法、さらにリハビリテーションを学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 授業内容および評価方法の説明。 【第2回】 スポーツ傷害の予防と処置 【第3回】 リハビリと頭部の損傷 【第4回】 頸部と頸椎の損傷 【第5回】 肩の損傷 【第6回】 上肢と肘の損傷 【第7回】 手関節と手の損傷 【第8回】 腰部の損傷① 【第9回】 腰部の損傷② 【第10回】 股関節・大腿部の損傷 【第11回】 膝関節の損傷① 【第12回】 膝関節の損傷② 【第13回】 下腿と足関節の損傷 【第14回】 足部と足指の損傷 【第15回】 筆記試験 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率・・・10% 小テスト・・・10% 筆記試験・・・80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 現場で役立つスポーツ損傷ガイド

授 業 概 要

[年度] 令和 1 年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1 年	[講義期間] 後期
[教育内容] 講義	[科目名] トレーニング理論 I
[時間、単位数] 30 時間 2 単位	[担当教員] 比嘉 充人 (実務経験あり)
[授業の目的] 将来現場で一人一人のトレーニング目的に合った運動が指導できるよう、トレーニングについての基礎的な知識を身につける。 [授業の概要] 将来、一人一人のクライアントのニーズに応じたトレーニング指導ができるよう、運動に対する身体についての基本的な知識と、体力評価法やプログラムデザイン等の指導手順についての理解を深める。	
[授業内容] 【第 1 回】筋、神経、骨格系の構造と機能 【第 2 回】心臓血管系と呼吸器系の構造と機能 【第 3 回】生体エネルギー機構 【第 4 回】レジスタンストレーニングへの適応 【第 5 回】有酸素トレーニングへの適応 【第 6 回】クライアントの面談と健康評価 【第 7 回】体力評価の選択と管理 【第 8 回】体力テスト法と評価基準 【第 9 回】柔軟性、自重、スタビリティエクササイズ 【第 10 回】レジスタンストレーニングのエクササイズテクニック 【第 11 回】心臓血管系活動のテクニック 【第 12 回】レジスタンストレーニングのプログラムデザイン 【第 13 回】有酸素持久力のプログラムデザイン 【第 14 回】プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング 【第 15 回】テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] テスト・・・80% 出席率・・・10% 授業態度・・・10% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 健康運動実践指導者養成用テキスト

授 業 概 要

[年度] 令和 1 年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1 年	[講義期間] 後期
[教育内容] 講義	[科目名] 機能解剖学Ⅱ
[時間、単位数] 30 時間 2 単位	[担当教員] 新川 慶（実務経験あり）
[授業の目的] 身体運動に関する骨と筋肉の名称、関節のしくみなどを理解する。 筋肉の種類や関節を動かす筋についても理解し、動作分析やリハビリテーション、テーピングにつなげる。整体実技、リンパマッサージ、アロママッサージの基礎とする。 [授業の概要] 骨格、筋、関節の動きなどを学ぶため、骨格モデルや映像などを駆使して授業を行う。 中間テスト、期末テストおよび宿題レポートなどで評価していく。 テキストに基づいたオリジナルプリントで学習を進めていく。	
[授業内容] 【第 1 回】 オリエンテーション・授業内容・評価方法 【第 2 回】 肩甲帯に関わる筋肉 【第 3 回】 肩関節に関わる筋肉 【第 4 回】 肘関節に関わる筋肉 【第 5 回】 手関節に関わる筋肉 【第 6 回】 上肢筋のまとめ 【第 7 回】 中間テスト 【第 8 回】 テスト回答・解説 【第 9 回】 股関節に関わる筋肉 【第 10 回】 膝関節に関わる筋肉 【第 11 回】 足関節に関わる筋肉 【第 12 回】 体幹・脊柱に関わる筋肉 【第 13 回】 下肢筋のまとめ 【第 14 回】 期末テスト 【第 15 回】 テスト回答・解説 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 定期試験の得点・・・80% 出席率、授業態度・・・20% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 身体運動の機能解剖学

授 業 概 要

<p>[年度] 令和1年度</p>	<p>[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次] 1年</p>	<p>[講義期間] 後期</p>
<p>[教育内容] 講義</p>	<p>[科目名] 障がい者スポーツ</p>
<p>[時間、単位数] 30時間 2単位</p>	<p>[担当教員] 下地 隆之（実務経験あり）</p>
<p>[授業の目的] スポーツに参加する障害者に対して、スポーツをより安全に実施しスポーツの喜びや楽しさを伝えられる指導者の養成を目的とし、障がいへの理解・スポーツ導入への動機づけ、実施方法について学ぶ。</p> <p>[授業の概要] 初級障がい者スポーツ指導員の資格取得をめざす科目設定で講義を進める共に、余暇活動を利用した現場活動に繋がるプログラムを実施する。</p>	
<p>[授業内容] 【第1回】障がい者スポーツの意義と理念① 【第2回】障がい者スポーツの意義と理念② 【第3回】障がいの理解とスポーツ① 【第4回】障がいの理解とスポーツ② 【第5回】障がい者との交流① 【第6回】ボランティア論 【第7回】スポーツ安全管理 【第8回】障がいの理解とスポーツ③ 【第9回】障がいの理解とスポーツ④ 【第10回】全国障害者スポーツ大会の概要 【第11回】障がいに応じたスポーツの工夫・実施① 【第12回】障がいに応じたスポーツの工夫・実施②／障がい者との交流② 【第13回】障害者福祉施策と障害者スポーツ① 【第14回】障害者福祉施策と障害者スポーツ② 【第15回】障がい者スポーツ指導者制度／まとめ</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準] レポート・・・80% 授業態度・・・10% 出席率・・・10% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献] 障がい者のスポーツ指導教本</p>

授 業 概 要

[年度] 令和 1 年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1 年	[講義期間] 後期
[教育内容] 講義	[科目名] テーマ研究
[時間、単位数] 30 時間 2 単位	[担当教員] 大山 敦史
[授業の目的] 学生が興味・関心のあるスポーツ分野について調べ、発表し、他学生と意見し合う。その中でプレゼンテーション能力を高めることや自己と他者との物の見方、考え方の違いを認識し、スポーツ各領域の知識を深めることを目的とする。 [授業の概要] 学生が興味・関心のあるスポーツ分野について調べ、発表し、内容について意見し合う。	
[授業内容] 【第 1 回】オリエンテーション 【第 2 回】発表・プレゼンテーション 【第 3 回】発表・プレゼンテーション 【第 4 回】発表・プレゼンテーション 【第 5 回】発表・プレゼンテーション 【第 6 回】発表・プレゼンテーション 【第 7 回】発表・プレゼンテーション 【第 8 回】発表・プレゼンテーション 【第 9 回】発表・プレゼンテーション 【第 10 回】発表・プレゼンテーション 【第 11 回】発表・プレゼンテーション 【第 12 回】発表・プレゼンテーション 【第 13 回】発表・プレゼンテーション 【第 14 回】発表・プレゼンテーション 【第 15 回】まとめ 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] プレゼンテーション評価・・・80% 出席率・・・10% 授業態度・・・10% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 前年度学生作成資料

授 業 概 要

[年度] 令和1年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1年	[講義期間] 後期
[教育内容] 実習	[科目名] ストレッチ応用 (PNF)
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 大山 敦史 (実務経験あり)
[授業の目的] PNFストレッチの特性と効果を理解し、即応できる実践力を身につけることを目的とする。 [授業の概要] 各部位へのストレッチの実施方法を学ぶ。その上でPNFストレッチの特性や効果を理解し、適切な指導力を身につけることを目的とする。	
[授業内容] 【第1回】オリエンテーション 成績評価の方法を説明する 【第2回】ホールドリラクセス、コントラクトリラクセスの理解する。 下肢のPNFストレッチ：ひふく筋・ヒラメ筋・ハムストリングス（外側・内側） 【第3回】前回の復習・大殿筋・中殿筋・内転筋（単関節筋・二関節筋） 【第4回】前回の復習・大腿四頭筋・大腿筋膜張筋・腸腰筋 【第5回】前回の復習・前脛骨筋 【第6回】復習 【第7回】テスト（各筋のPNFストレッチが実施できるか） 【第8回】上肢のPNFストレッチ：大胸筋（中部・下部・上部）・僧帽筋（上部・中部・下部） 【第9回】前回の復習・上腕二頭筋・上腕三頭筋 【第10回】前回の復習・前腕伸筋群・前腕屈筋群 【第11回】前回の復習・広背筋・腰方形筋 【第12回】復習 【第13回】テスト（各筋のPNFストレッチが実施できるか） 【第14回】腰痛へのアプローチ方法 【第15回】肩こりへのアプローチ方法 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 授業態度・・・10% 出席率・・・10% 実技テスト・・・80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] ストレッチ完全マニュアル=下肢編= ストレッチ完全マニュアル=上肢編=

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>2年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>前期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>整体応用実技Ⅰ</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>60時間 4単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>新川 慶（実務経験あり）</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>整体セラピストとしての自身の心のあり方と患者に対して最高の施術ができるようにする。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>整体基本動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>【第1回】オリエンテーション・1年次の復習</p> <p>【第2回】整体施術（上肢）</p> <p>【第3回】整体施術（下肢）</p> <p>【第4回】肩腱板損傷</p> <p>【第5回】上腕二頭筋長頭筋損傷</p> <p>【第6回】インピンジメント症候群（肩峰下滑液包炎）</p> <p>【第7回】胸郭出口症候群</p> <p>【第8回】頸椎椎間板ヘルニア</p> <p>【第9回】頸、肩にかけてのアプローチ</p> <p>【第10回】内側側副靭帯損傷（テニス肘、野球肘）～肘関節～</p> <p>【第11回】座位でのアプローチ</p> <p>【第12回】側臥位でのアプローチ</p> <p>【第13回】マットを使つてのアプローチ</p> <p>【第14回】まとめ</p> <p>【第15回】テスト</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 授業態度…10%</p> <p>テスト…80%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>NPO法人日本セラピスト協会認定図書</p> <p>「整体セラピストになる」</p>

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">2 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">前期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">整体臨床施術演習 I</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">60 時間 4 単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">山川 宗治 (実務経験あり)</p>
[授業の目的] 身体の構造 (筋と骨) を理解し、痛い部位と原因の確認ができ、正しい施術が出来るようになる。 実際に痛めている患者で、臨床実技を行い実践指導し即戦力としての指導を行う。 [授業の概要] 実際に臨床例の講義を行い、筋肉と骨の違いを理解し、骨を支える靭帯と骨を動かす腱の施術を行う。 地域のデイサービスに出かけ、老人に対し施術を行う。	
[授業内容] 【第 1 回】講義：(頸椎・上肢) 痛のテスト検査と施術方法 実技：整体基本操作 【第 2 回】地域デイサービスにて実践に施術を行う 実技：整体基本操作 【第 3 回】講義：頸椎の施術で腰の張りを取る方法 実技：整体基本操作 【第 4 回】講義：(頸椎・上肢) 臨床診断方法 実技：整体基本操作 【第 5 回】講義：(頸椎・上肢) 可動範囲の確認と施術方法 実技：整体基本操作 【第 6 回】地域デイサービスにて実践に施術を行う。 実技：整体基本操作 【第 7 回】講義：肩関節の障害に対するの施術方法 実技：整体基本操作 【第 8 回】講義：腱鞘炎の障害に対するの施術方法 実技：整体基本操作 【第 9 回】講義：肘関節の障害に対するの施術方法 実技：整体基本操作 【第 10 回】地域デイサービスにて実践に施術を行う 実技：整体基本操作 【第 11 回】講義：四十肩の障害に対するの施術を行う 実技：整体基本操作 【第 12 回】講義：偏頭痛の障害に対するの施術を行う 実技：整体基本操作 【第 13 回】講義：スポーツ肘に対するの施術方法 実技：整体基本操作 【第 14 回】地域デイサービスにて実践に施術を行う 実技：整体基本操作 【第 15 回】講義：肋間神経痛の障害に対するの施術方法 実技：整体基本操作 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。 また定期的の実技テストを行う。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 授業態度…10% 実技テスト…80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] NPO 法人日本セラピスト協会認定図書 「整体セラピストになる」

授 業 概 要

[年度] 令和 1 年度	[学科名] スポーツ整体メディカルトレーナー学科
[年次] 2 年	[講義期間] 前期
[教育内容] 実習	[科目名] アロマセラピーⅢ
[時間、単位数] 60 時間 4 単位	[担当教員] 島袋 直美 (実務経験あり)
[授業の目的] アロマセラピーは、専門家や医師の臨床研究により、疾病改善や健康維持、美容分野での有効性は高く評価されてきました。ストレス社会といわれる背景に、職場や家庭環境での人間関係の綻れが精神的ダメージとなり、健康を害する要因といわれています。アロマセラピーで用いる精油（香り）を通して、自分自身に向き合う環境を作り、ホリスティック（心・体・精神）にアプローチしていく方法を学び、ライフスタイルの見直しを提供できる技術者を育成する。 [授業の概要] アロマセラピー基礎の復習（取り扱い利用法など）、多くの実践する機会を作ることによって、心・体の症状に合わせた調合法を学び、精油の吸収経路（経肺的・経皮的・経口的）の理解を深め、専門的技術を学習し、セラピストとしての心構え、クライアントを受容する姿勢を身につけることを意識して授業を行う。	
[授業内容] 【第 1 回】基礎復習／資格制度、アロマセラピスト活動分野・実践編（自分自身を癒す） 【第 2 回】精油の化学／内分泌腺と神経系（気・身体・精油の関係）・実践編（自分自身を癒す） 【第 3 回】精油の薬理学／カルテ検査・記入・内容・判断・精油選択 【第 4 回】ボディトリートメント概論（ホメオスタシス）／ボディーワーク・実習（エアーフレッシュナーオリジナルオイル） 【第 5 回】アロマオイルトリートメント実技（体の後面の下肢／カルテ記入・検査・精油選び） 【第 6 回】基本のオイルトリートメント（体の後面・腰背部）／カルテ記入・検査・精油選び 【第 7 回】基本のオイルトリートメント（体の前面・下肢）／カルテ記入・検査・精油選び 【第 8 回】基本のオイルトリートメント（体の前面・上肢）／カルテ記入・検査・精油選び 【第 9 回】基本のオイルトリートメント（体の前面・腹部）／カルテ記入・検査・精油選び 【第 10 回】基本のオイルトリートメント（体の前面・頸部）／カルテ記入・検査・精油選び 【第 11 回】全身トリートメント 【第 12 回】全身トリートメント 【第 13 回】全身トリートメント 【第 14 回】アロマオイルトリートメント実技試験 【第 15 回】アロマオイルトリートメント実技試験 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 授業態度…10% 出席率…10% 実技試験…80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] ホリスティックアロマセラピスト

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">2 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">前期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">レジスタンストレーニング指導 I</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">金城 智士 (実務経験あり)</p>
[授業の目的] <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆるスポーツ動作や日常動作に共通する基本的な身体の使い方（全身の適切なアライメントや動作コントロールなど）と、それを可能にさせる基礎的な筋力と柔軟性をより単純なエクササイズ動作を通じ習得することです。 [授業の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・レジスタンスエクササイズを理解し、指導が行えるまでにする。 ・NSCAのテキストを用い授業を進め、出席・テストにて評価を行う。 	
[授業内容] 【第 1 回】オリエンテーション 【第 2 回】ベーシックなトレーニング種目における基本事項 【第 3 回】ハングクリーン（デットリフト（バーベルの上げ下ろし動作）） 【第 4 回】ハングクリーン（スタート姿勢、ハイプル） 【第 5 回】ハングクリーン（キャッチ姿勢） 【第 6 回】ハングクリーン（一連の流れ） 【第 7 回】ハングクリーン（自主練習） 【第 8 回】ハングクリーン（まとめ） 【第 9 回】ハングクリーンからの応用（スナッチ、ジャーク、スプリクトジャーク） 【第 10 回】スクワット（スタート姿勢、下げる動作、上げる動作） 【第 11 回】スクワット（復習、練習） 【第 12 回】ベンチプレス（スタート姿勢、下ろす動作、上げる動作） 【第 13 回】ベンチプレス（復習、練習） 【第 14 回】実技試験 【第 15 回】実技試験 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 授業態度…10% 出席率…10% 実技試験…80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] NSCAJAPAN レベルアッププログラムテキスト

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 2年次</p>	<p>〔講義期間〕 前期</p>
<p>〔教育内容〕 講義</p>	<p>〔科目名〕 東洋医学概論 I</p>
<p>〔時間、単位数〕 30時間 2単位</p>	<p>〔担当教員〕 南部 美幸（実務経験あり）</p>
<p>〔授業の目的〕 東洋医学のしくみ・考え方をすることで、健康管理・体調管理のあり方、病気との接し方など施術に必要な知識・技術の幅を広げる。</p> <p>〔授業の概要〕 東洋医学の基本的な考え方を学ぶ。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 東洋医学の統一体観 【第2回】 気・血・津液とは 【第3回】 陰陽論 【第4回】 五行説 1 【第5回】 五行説 2 【第6回】 病因 外感 【第7回】 病因 内傷 【第8回】 中間テスト 【第9回】 経穴とは 【第10回】 経絡とは 【第11回】 取穴 【第12回】 四診（舌診） 【第13回】 四診（脈診） 【第14回】 前期復習 【第15回】 期末テスト 	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 中間テスト…40% 期末テスト…40% 出席率…10% 授業態度…10% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 東洋医学のしくみ</p>

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 2年</p>	<p>〔講義期間〕 前期</p>
<p>〔教育内容〕 実習</p>	<p>〔科目名〕 キネシオテーピングⅠ</p>
<p>〔時間、単位数〕 30時間 2単位</p>	<p>〔担当教員〕 大城 一之（実務経験あり）</p>
<p>〔授業の目的〕 基本的なテーピングの貼り方について学ぶ</p> <p>〔授業の概要〕 スポーツ競技の現場において、応急処置ができるトレーナーを目指す</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】授業進行について 【第2回】キネシオテーピングの療法・効果・取扱いについて 【第3回】基本練習 三角筋テープの切り方・貼り方の理解 【第4回】基本練習 仙棘筋テープの切り方・貼り方の理解 【第5回】手首の痛み のテープの貼り方 【第6回】肘の痛み のテープの貼り方・切り方の理解 【第7回】腱鞘炎 のテープの貼り方・切り方の理解 【第8回】肩こりのテープの貼り方・切り方の理解 【第9回】肩こりのテープの貼り方・切り方の理解 【第10回】膝の痛みのテープの貼り方・切り方の理解 【第11回】膝の痛みのテープの貼り方・切り方の理解 【第12回】坐骨神経痛の貼り方・切り方の理解 【第13回】腰の痛みの貼り方・切り方の理解 【第14回】腰の痛みの貼り方・切り方の理解 【第15回】テスト</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 出席率…10% 授業態度…10% テスト…80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 キネシオテーピング教材</p>

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>2年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>前期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>講義</p>	<p>[科目名]</p> <p>トレーニング理論Ⅱ</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>岡山 奨 (実務経験あり)</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>週・月・年間の期間ごとに運動プログラムを作成できるようになることを目標とする。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>トレーニングメニューを組む際の注意点や原理、原則を踏まえてトレーニングを組む。また、NSCAの資格対策も兼ねながら、理解度に応じて、小まめにテスト問題を行うものとする。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>【第1回】オリエンテーション・講義の進め方、評価方法の説明</p> <p>【第2回】トレーニングの原理・原則を理解し、各々に合ったトレーニング種目を選択する</p> <p>【第3回】ピリオダイゼーション（期分け）の理解</p> <p>【第4回】筋肥大期・筋持久力期・パワー期のタイミングを理解する</p> <p>【第5回】スポーツの特異性に応じて、ピリオダイゼーションの組み方の違いを理解する</p> <p>【第6回】超回復の理解と、オーバートレーニングの現象を理解する。</p> <p>【第7回】トレーニングを中止した場合に起こる現象の理解（デイトレーニング）</p> <p>【第8回】レジスタンストレーニングを行った場合の短期適応の理解</p> <p>【第9回】レジスタンストレーニングを行った場合の長期適応の理解</p> <p>【第10回】中間テスト（今までの講義内容を理解できているかを理解する）</p> <p>【第11回】有酸素トレーニングの短期適応の理解</p> <p>【第12回】有酸素トレーニングの長期適応の理解</p> <p>【第13回】レジスタンストレーニングのステータスの分類</p> <p>【第14回】トレーニング種目選択・頻度・配列の理解</p> <p>【第15回】ケーススタディにて、プログラムを作成することができる</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度…10% 出席率…10%</p> <p>テスト…80%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>NSCAテキスト</p>

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">2 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">前期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">講義</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">健康運動概論 I</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">根間 舞夢</p>
[授業の目的] 将来、地域の人々の健康づくりを担う健康運動指導者として必要な、健康や運動指導に関する基本的知識を身につけることを目的とする。 [授業の概要] 健康運動実践指導者テキストに沿ったオリジナルプリントにて進めていく。	
[授業内容] 【第 1 回】オリエンテーション・授業、評価について 【第 2 回】健康づくり施策概論① 【第 3 回】健康づくり施策概論② 【第 4 回】運動生理学① 【第 5 回】運動生理学② 【第 6 回】体力測定評価① 【第 7 回】体力測定評価② 【第 8 回】中間テスト 【第 9 回】機能解剖とバイオメカニクス① 【第 10 回】機能解剖とバイオメカニクス② 【第 11 回】栄養摂取と運動 【第 12 回】運動指導の心理学 【第 13 回】健康づくりと運動プログラム① 【第 14 回】健康づくりと運動プログラム② 【第 15 回】期末テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席…10% 授業態度…10% 提出物…10% テスト…70% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 健康運動実践指導者養成用テキスト

授 業 概 要

[年度] 令和1年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 2年	[講義期間] 前期
[教育内容] 実習	[科目名] 健康づくりと運動
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 根間 舞夢
[授業の目的] 健康づくりのための運動とはどのような運動か？考え、理解し、指導する力をつける。 高齢社会、メタボリックシンドロームなどの健康問題に有効な運動である有酸素運動を理解し、指導ができるスキルを身につける。 健康運動実践指導者実技試験合格レベルを目標とし、試験の実技科目の選択にも活かすものとする。 [授業の概要] ウォーミングアップ・メインの有酸素運動・クーリングダウンを実践し、自ら考えプログラムし集団指導ができるよう、ドリルを中心に行う。 グループワーク等も行い、実際に発表させ、現場での指導にも活かせるものとする。	
[授業内容] 【第1回】オリエンテーション（授業内容・評価方法等） 【第2回】有酸素運動について（実際に約60分のエアロビクスを体験・低強度） 【第3回】有酸素運動について②（実際に約60分のエアロビクスを体験・中強度） 【第4回】有酸素運動について③（実際に約60分のエアロビクスを体験・高強度） 【第5回】有酸素運動について④（まとめ） 【第6回】エアロビクス①（カウントの取り方・プログラムの組み立て） 【第7回】エアロビクス②（カウントの取り方・プログラムの組み立て） 【第8回】エアロビクス③ 発表・評価 【第9回】エアロビクス④（指導の注意点・キューイングについて） 【第10回】エアロビクス⑤発表・評価 【第11回】アクアエクササイズ①（実際に水中運動を体験） 【第12回】アクアエクササイズ②（実際に水中運動を体験） 【第13回】アクアエクササイズ③（水中運動の指導について） 【第14回】クーリングダウンについて 【第15回】テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することとする。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 授業態度…10% 提出物…10% 実技テスト…70% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 健康運動実践指導者養成用テキスト

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>2年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>前期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>リンパケアⅠ</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>島 美穂（実務経験あり）</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>リンパケア・ヒーリングセラピーとは代替療法の一つで、生き物に本来備わっている自発的治療を信じ、それを補助する手技である。リンパが司る「免疫」と「排泄」は、整体やアロマセラピー、その他の他の代替療法に関しても深く関わりがあり、「健康」「美容」に直接的につながることを学ぶ。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>栄養学もこれからは摂取から排泄の時代といわれており、排泄機能を有するリンパに着目している。リンパを流し、排泄を促進するという理論をしっかりと理解し、専門的技術の習得を目的とする。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>【第1回】オリエンテーション（前期の復習）</p> <p>【第2回】実技（鎖骨へのアプローチ）</p> <p>【第3回】実技（背中へのアプローチ）</p> <p>【第4回】実技（鎖骨・背中へのアプローチ）</p> <p>【第5回】実技（大腿部・下腿部後面へのアプローチ）</p> <p>【第6回】実技（大腿部・下腿部後面へのアプローチ）</p> <p>【第7回】実技（上腕・前腕へのアプローチ）</p> <p>【第8回】実技（腹部へのアプローチ）</p> <p>【第9回】実技（大腿部・下腿部前面へのアプローチ）</p> <p>【第10回】実技（大腿部・下腿部前面へのアプローチ）</p> <p>【第11回】復習</p> <p>【第12回】実技試験対策</p> <p>【第13回】実技試験</p> <p>【第14回】実技試験</p> <p>【第15回】実技試験</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 授業態度…10%</p> <p>実技試験…80%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>リンパケア・ヒーリングセラピーテキスト</p>

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">2 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">前期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">テーピング実践</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">宜野座 康秀 (実務経験あり)</p>
[授業の目的] 各部位のテーピング法の理論と実技を学ぶ [授業の概要] 機能解剖学等で学んだ基礎知識を活用し、筋肉や各関節に合わせたテーピングを行う。	
[授業内容] 【第 1 回】 授業進行について 【第 2 回】 テーピングの種類・基本の巻き方 【第 3 回】 テーピングを巻く際の注意事項 【第 4 回】 足関節のテーピング 【第 5 回】 〃 【第 6 回】 膝関節のテーピング 【第 7 回】 〃 【第 8 回】 ハムストリングスのテーピング 【第 9 回】 9ワードのテーピング 【第 10 回】 肩関節のテーピング 【第 11 回】 肘のテーピング 【第 12 回】 足底筋のテーピング 【第 13 回】 母指のテーピング 【第 14 回】 腰のテーピング 【第 15 回】 理解度試験 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 授業態度…10% 実技および口頭試験…80% 理解度の低い学生に対しレポート提出をさせる場合もある。 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 講師作成資料

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>2年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>前期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>講義</p>	<p>[科目名]</p> <p>運動プログラム</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>上村 愛子 (実務経験あり)</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>スポーツトレーナーとして大切な運動のプログラミングや運動処方の基礎を身につける。 特に有酸素性運動の理解と運動強度の設定に重点を置く。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>最新フィットネス基礎理論の運動処方を中心に理解を深めていく。 中間テストと期末テストを実施し、理解度を確認する。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>【第1回】オリエンテーション・授業、評価について 【第2回】運動処方とは 【第3回】運動処方の手順 【第4回】呼吸循環器疾患の自覚症状 【第5回】有酸素性運動の指導 【第6回】運動指導における注意点 【第7回】中間テスト 【第8回】有酸素運動の処方（種類） 【第9回】有酸素運動の処方（強度）① 【第10回】有酸素運動の処方（強度）② 【第11回】有酸素運動の処方（時間・頻度） 【第12回】目標心拍数の求め方 【第13回】健康日本21（第二次） 【第14回】期末テスト 【第15回】総復習</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 授業態度…10% 中間テスト…40% 期末テスト…40% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>最新フィットネス基礎理論</p>

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">2 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">後期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">整体応用実技Ⅱ</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">60 時間 4 単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">新川 慶（実務経験あり）</p>
[授業の目的] 整体セラピストとしての自身の心のあり方と患者に対して最高の施術ができるようにする。 [授業の概要] 整体基本動作を実践し基本施術をマスターしてもらう。	
[授業内容] 【第 1 回】オリエンテーション・前期の復習 【第 2 回】腰椎椎間板ヘルニア 【第 3 回】変形性股関節症 【第 4 回】肉離れ（大腿四頭筋、ハムストリングス） 【第 5 回】膝関節側副靭帯損傷 【第 6 回】前および後十字靭帯損傷 【第 7 回】半月（板）損傷 【第 8 回】その他膝の損傷（鷲足炎、腸脛靭帯炎、ジャンパー膝、オスグッド） 【第 9 回】アキレス腱断裂、下腿三頭筋肉離れ 【第 10 回】シンスプリント 【第 11 回】座位でのアプローチ（下肢） 【第 12 回】側臥位でのアプローチ（下肢） 【第 13 回】マットを使つてのアプローチ（下肢） 【第 14 回】まとめ 【第 15 回】テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 授業態度…10% テスト…80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] NPO 法人日本セラピスト協会認定図書 「整体セラピストになる」

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>																														
<p>〔年次〕 2年</p>	<p>〔講義期間〕 後期</p>																														
<p>〔教育内容〕 実習</p>	<p>〔科目名〕 整体臨床施術演習Ⅱ</p>																														
<p>〔時間、単位数〕 60時間 4単位</p>	<p>〔担当教員〕 山川 宗治（実務経験あり）</p>																														
<p>〔授業の目的〕 身体の構造（筋肉・骨）を理解し、痛い部位と原因の確認が出来、正しい施術が出来るようにする。 実際に痛めている患者で臨床実技を行い、実践指導し即戦力としての指導を行う。</p> <p>〔授業の概要〕 実際に臨床例の講義を行い、筋肉と骨の違いを理解し、骨を支える靭帯と骨を動かす腱の施術を行う。 地域のデイサービスに出かけ、老人に対し施術を行う。</p>																															
<p>〔授業内容〕</p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】地域のデイサービスにて実践にて施術を行う</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第2回】講義：肋間神経痛の障害に対するの施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第3回】地域のデイサービスにて実践にて施術を行う</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第4回】講義：頸椎ヘルニアの障害に対するの施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第5回】地域のデイサービスにて実践にて施術を行う</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第6回】講義：脊椎分離・滑りの障害に対するの施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第7回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第8回】講義：側湾症の障害に対するの施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第9回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第10回】講義：腰椎ヘルニアの障害に対するの施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第11回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第12回】講義：股関節の障害に対するの施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第13回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第14回】講義：膝・足首の障害に対するの施術方法</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> <tr> <td>【第15回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う</td> <td>実技：整体基本操作</td> </tr> </table> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。 また定期的の実技テストを行う。</p>		【第1回】地域のデイサービスにて実践にて施術を行う	実技：整体基本操作	【第2回】講義：肋間神経痛の障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作	【第3回】地域のデイサービスにて実践にて施術を行う	実技：整体基本操作	【第4回】講義：頸椎ヘルニアの障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作	【第5回】地域のデイサービスにて実践にて施術を行う	実技：整体基本操作	【第6回】講義：脊椎分離・滑りの障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作	【第7回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作	【第8回】講義：側湾症の障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作	【第9回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作	【第10回】講義：腰椎ヘルニアの障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作	【第11回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作	【第12回】講義：股関節の障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作	【第13回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作	【第14回】講義：膝・足首の障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作	【第15回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作
【第1回】地域のデイサービスにて実践にて施術を行う	実技：整体基本操作																														
【第2回】講義：肋間神経痛の障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作																														
【第3回】地域のデイサービスにて実践にて施術を行う	実技：整体基本操作																														
【第4回】講義：頸椎ヘルニアの障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作																														
【第5回】地域のデイサービスにて実践にて施術を行う	実技：整体基本操作																														
【第6回】講義：脊椎分離・滑りの障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作																														
【第7回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作																														
【第8回】講義：側湾症の障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作																														
【第9回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作																														
【第10回】講義：腰椎ヘルニアの障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作																														
【第11回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作																														
【第12回】講義：股関節の障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作																														
【第13回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作																														
【第14回】講義：膝・足首の障害に対するの施術方法	実技：整体基本操作																														
【第15回】地域のデイサービスにて実践に施術を行う	実技：整体基本操作																														
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 出席率…10% 授業態度…10% 実技テスト…80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 NPO法人日本セラピスト協会認定図書 「整体セラピストになる」</p>																														

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 2年</p>	<p>〔講義期間〕 後期</p>
<p>〔教育内容〕 実習</p>	<p>〔科目名〕 アロマセラピーⅣ</p>
<p>〔時間、単位数〕 60時間 4単位</p>	<p>〔担当教員〕 島袋 直美（実務経験あり）</p>
<p>〔授業の目的〕 アロマセラピーは、専門家や医師の臨床研究により、疾病改善や健康維持、美容分野での有効性は高く評価されてきました。ストレス社会といわれる背景に、職場や家庭環境での人間関係の罣れが精神的ダメージとなり、健康を害する要因といわれています。アロマセラピーで用いる精油（香り）を通して、自分自身に向き合う環境を作り、ホリスティック（心・体・精神）にアプローチしていく方法を学び、ライフスタイルの見直しを提供できる技術者を育成する。</p> <p>〔授業の概要〕 アロマセラピー基礎の復習（取り扱い利用法など）、多くの実践する機会を作ることによって、心・体の症状に合わせた調合法を学び、精油の吸収経路（経肺的・経皮的・経口的）の理解を深め、専門的技術を学習し、セラピストとしての心構え、クライアントを受容する姿勢を身につけることを意識して授業を行う。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】トリートメント概論①／環境適応のメカニズム（自律神経系、内分泌系、免疫系）</p> <p>【第2回】トリートメント概論②／ストレスと脳の間わり</p> <p>【第3回】トリートメント概論③／ストレスと自律神経系の間わり</p> <p>【第4回】トリートメント概論④／ストレスと内分泌系の間わり</p> <p>【第5回】トリートメント概論⑤／ストレスと免疫系の間わり</p> <p>【第6回】ボディーワーク／外胚葉・内胚葉・中胚葉・コラーゲンの役割</p> <p>【第7回】カウンセリング／方法と心の変化・心のしくみ・実習（香水）</p> <p>【第8回】アロマボディートリートメント実技編／カルテ・カウンセリング</p> <p>【第9回】アロマボディートリートメント実技編／目的・特徴</p> <p>【第10回】スポーツアロマ基礎編</p> <p>【第11回】スポーツアロマ実践編</p> <p>【第12回】アロマセラピスト筆記試験対策</p> <p>【第13回】アロマセラピスト筆記試験対策</p> <p>【第14回】アロマセラピスト筆記試験</p> <p>【第15回】アロマセラピスト筆記試験</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 出席率…10% 授業態度…10% 筆記試験…80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 ホリスティックアロマセラピスト</p>

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">2 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">後期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">レジスタンストレーニング指導Ⅱ</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">金城 智士（実務経験あり）</p>
[授業の目的] 補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解させる。 目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導方法を学ばせる。 [授業の概要] レジスタンスエクササイズを理解し、指導が行えるまでにする。 ウィダーストレングス&コンディショニングエクササイズ・バイブルテキストを用い授業を進め、出席・テストにて評価を行う。	
[授業内容] 【第 1 回】オリエンテーション 【第 2 回】体幹部のトレーニング 【第 3 回】胸部のトレーニング 【第 4 回】大腿部のトレーニング 【第 5 回】背部のトレーニング 【第 6 回】腰背部のトレーニング 【第 7 回】腕のトレーニング 【第 8 回】特定クライアントについて（妊婦・高齢者・子供） 【第 9 回】特定クライアントについて（妊婦・高齢者・子供） 【第 10 回】集団指導 【第 11 回】集団指導 【第 12 回】ボール・チューブを用いたトレーニングについて 【第 13 回】ボール・チューブを用いたトレーニングについて 【第 14 回】評価 【第 15 回】総合テスト 上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 授業態度…10% 総合テスト…80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 健康運動実践指導者養成テキスト ウィダーストレングス&コンディショニング エクササイズ・バイブル

授 業 概 要

<p>[年度] 令和1年度</p>	<p>[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次] 2年</p>	<p>[講義期間] 後期</p>
<p>[教育内容] 講義</p>	<p>[科目名] スポーツ医学</p>
<p>[時間、単位数] 30時間 2単位</p>	<p>[担当教員] 上村 愛子 (実務経験あり)</p>
<p>[授業の目的] 整形外科的疾患や生活習慣病と運動との関わりを理解し、安全かつ効果的な運動指導が出来るように知識を深める。</p> <p>[授業の概要] 整形外科的疾患や内科疾患と運動の関わりを理解する。</p>	
<p>[授業内容] 【第1回】授業内容および評価方法の説明 【第2回】突然死 【第3回】熱中症 【第4回】内科的な急性障害 【第5回】内科的な慢性傷害 【第6回】突き指 【第7回】骨折 【第8回】捻挫 【第9回】腰痛・頭を強く打った時の対処法 【第10回】中間テスト 【第11回】メタボリックシンドローム・糖尿病 【第12回】高血圧・脂質異常症 【第13回】生活習慣病の運動療法 【第14回】期末テスト 【第15回】総復習</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準] 中間テスト…40% 期末テスト…40% 授業態度…10% 出席率…10% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献] 健康運動指導者養成用テキスト NSCAパーソナルトレーナーの基礎知識</p>

授 業 概 要

[年度] 令和1年度	[学科名] スポーツ整体メディカルトレーナー学科
[年次] 2年次	[講義期間] 後期
[教育内容] 講義	[科目名] 東洋医学概論Ⅱ
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 南部 美幸（実務経験あり）
[授業の目的] 東洋医学のしくみ・考え方をすることで、健康管理・体調管理のあり方、病気との接し方など施術に必要な知識・技術の幅を広げる。 [授業の概要] 東洋医学を施術や日常生活での体質改善などに活かす方法を学ぶ。	
[授業内容] 【第1回】 肩関節痛への東洋医学的アプローチ 【第2回】 腰痛への東洋医学的アプローチ 【第3回】 頭痛への東洋医学的アプローチ 【第4回】 アレルギー・ストレスへの東洋医学的アプローチ 【第5回】 鍼の治療的作用・経絡テスト 【第6回】 虚証と実証 【第7回】 治則とは 【第8回】 中間テスト 【第9回】 鍼実技 【第10回】 五臓の変調 【第11回】 東洋医学と西洋医学の違い 【第12回】 養生法 【第13回】 漢方薬について 【第14回】 後期復習 【第15回】 期末テスト	
[単位認定の方法及び基準] 中間テスト…40% 期末テスト…40% 出席率…10% 授業態度…10% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 東洋医学のしくみ

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>2年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>後期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>リンパケアⅡ</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>島 美穂 (実務経験あり)</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>リンパケア・ヒーリングセラピーとは代替療法の一つで、生き物に本来備わっている自発的治療を信じ、それを補助する手技である。リンパが司る「免疫」と「排泄」は、整体やアロマセラピー、その他の他の代替療法に関しても深く関わりがあり、「健康」「美容」に直接的につながることを学ぶ。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>栄養学もこれからは摂取から排泄の時代といわれており、排泄機能を有するリンパに着目している。リンパを流し、排泄を促進するという理論をしっかりと理解し、専門的技術の習得を目的とする。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>【第1回】オリエンテーション</p> <p>【第2回】グループ学習</p> <p>【第3回】グループ学習</p> <p>【第4回】グループ学習発表</p> <p>【第5回】グループ学習発表</p> <p>【第6回】シナプソロジー&座学</p> <p>【第7回】座学 (リンパケア・ヒーリングセラピーとは)</p> <p>【第8回】座学 (呼吸・整体・皮膚)</p> <p>【第9回】座学 (食事・水分バランス)</p> <p>【第10回】座学 (リンパの知識・免疫のしくみ)</p> <p>【第11回】座学 (リンパを流す際の注意事項)</p> <p>【第12回】座学 (リンパケア・ヒーリングセラピーの自律神経系への影響)</p> <p>【第13回】座学 (反射経路に及ぼす影響・禁忌事項・好転反応)</p> <p>【第14回】テスト対策</p> <p>【第15回】筆記テスト</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 授業態度…10%</p> <p>テスト…80%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>リンパケア・ヒーリングセラピーテキスト</p>

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 2年</p>	<p>〔講義期間〕 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講義</p>	<p>〔科目名〕 健康運動概論Ⅱ</p>
<p>〔時間、単位数〕 30時間 2単位</p>	<p>〔担当教員〕 根間 舞夢</p>
<p>〔授業の目的〕 将来、地域の人々の健康づくりを担う健康運動指導者として必要な、健康や運動指導に関する基本的知識を身につけることを目的とする。また、ウォーキングや水泳・水中運動、レジスタンス運動等の健康づくり運動の各ポイントと注意点を理解する。</p> <p>〔授業の概要〕 健康運動実践指導者テキストに沿ったオリジナルプリントにて進めていく。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】オリエンテーション・復習 【第2回】健康運動実践指導者に必要な能力 【第3回】ウォーキング① 【第4回】ウォーキング② 【第5回】ジョギング① 【第6回】ジョギング② 【第7回】中間テスト 【第8回】エアロビックダンス① 【第9回】エアロビックダンス② 【第10回】水泳・水中運動① 【第11回】水泳・水中運動② 【第12回】ストレッチング 【第13回】レジスタンス運動 【第14回】ウォーミングアップとクーリングダウン 【第15回】期末テスト <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 授業態度…10% 出席率…10% テスト…70% 提出物…10% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 健康運動実践指導者テキスト</p>

授 業 概 要

[年度] 令和1年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 2年	[講義期間] 後期
[教育内容] 実習	[科目名] 健康運動概論・実技
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 根間 舞夢
[授業の目的] 受験必須となっている健康運動実践指導者実技試験の合格レベルを目指す。 「陸上運動」「水中運動」「レジスタンス運動」を理解し、実際に現場での指導に活かすことを目標に、安全で、楽しく、効果的な集団指導を行う指導者としてのスキルを身につける。 [授業の概要] 健康運動実践指導者の実技試験を熟知し、合格レベルを目指す。 エアロビクス指導、陸上での自体重レジスタンス指導が合格ラインになるようにする。 水中運動指導、水中でのレジスタンス指導が合格ラインになるようにする。	
[授業内容] 【第1回】オリエンテーション・授業・評価について 【第2回】実技試験内容と合格ライン（DVD学習） 【第3回】陸上運動／水中運動（プログラム作成） 【第4回】陸上運動／水中運動（プログラム作成） 【第5回】陸上運動／水中運動（グループワーク・発表） 【第6回】陸上運動／水中運動（グループワーク・発表） 【第7回】レジスタンス運動（プログラム作成） 【第8回】レジスタンス運動（プログラム作成） 【第9回】レジスタンス運動（グループワーク・発表） 【第10回】レジスタンス運動（グループワーク・発表） 【第11回】実技試験シュミレーション練習① 【第12回】実技試験シュミレーション練習② 【第13回】発表・評価 【第14回】実技試験シュミレーション練習① 【第15回】実技試験シュミレーション練習② 上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 授業態度…10% 提出物…10% 実技試験…70% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 健康運動実践指導者養成用テキスト

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>2年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>後期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>健康運動実践指導者試験対策</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>60時間 4単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>根間 舞夢</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>受験必須となっている、健康運動実践指導者実技試験合格を目指す。</p> <p>「陸上運動」「水中運動」「レジスタンス運動」について理解し、実際に現場での指導に活かすことを目標に、安全で、楽しく、効果的な集団指導を行う指導者としてのスキルを身につける。</p> <p>理論と併せた理解を促し、筆記試験での理解度を深める。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>健康運動実践指導者の実技試験を熟知し、合格を目指す。</p> <p>エアロビクス指導、陸上での自体重レジスタンス指導が合格ラインになるようにする。</p> <p>水中運動指導、水中でのレジスタンス指導が合格ラインになるようにする。</p> <p>理論と併せた理解を促し、実技試験終了後の筆記試験に繋がるようにする。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>【第1回】健康運動実践指導者試験内容の確認</p> <p>【第2回】実技種目練習①（陸上または水中）</p> <p>【第3回】実技種目練習②（陸上または水中）</p> <p>【第4回】実技種目練習③（陸上または水中）</p> <p>【第5回】実技試験シミュレーション練習①</p> <p>【第6回】実技試験シミュレーション練習②</p> <p>【第7回】実技試験シミュレーション練習③</p> <p>【第8回】実技試験シミュレーション練習④</p> <p>【第9回】模擬試験①</p> <p>【第10回】模擬試験②</p> <p>【第11回】模擬試験③</p> <p>【第12回】模擬試験④</p> <p>【第13回】発表・評価・総評</p> <p>【第14回】質疑応答（検定前の最終確認）</p> <p>【第15回】質疑応答（検定前の最終確認）②</p> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 実技テスト…70%</p> <p>授業態度…10% 提出物…10%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>健康運動実践指導者養成用テキスト</p>

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">2 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">後期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">特別実習</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30時間 2単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">大山 敦史</p>
[授業の目的] 各実習をとおり、現場経験やコミュニケーション能力や応用力を身につける。 [授業の概要] くめじまマラソン、ツールドおきなわ、とかしきマラソンなどにボランティアスタッフとして参加し、全体の施術やエイドステーションを担当する。	
[授業内容] くめじまマラソン、ツールドおきなわ、とかしきマラソンなどにボランティアスタッフとして参加し、全体の施術やエイドステーションを担当する。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 取組む姿勢…10% レポート提出…80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 自主編成プリント、資料

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>2年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>後期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>特別講義</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>大山 敦史</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>整体セラピストやストレッチポールの資格所得をめざす。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>整体セラピストやストレッチポールの資格所得を目的に各協会から講師を招き、事前講習、認定試験を行う。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>整体セラピストやストレッチポールの資格所得を目的に各協会から講師を招き、事前講習、認定試験を行う。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 授業態度…10%</p> <p>レポート提出…80%</p> <p>合否は単位認定に考慮しないものとする。</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>各協会指定のテキストを使用</p>

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">1 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">前期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">講義</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">情報リテラシー I</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">屋比久 武</p>
[授業の目的] 表計算技能標準試験 2 級合格と同等レベルの技能習得を目指す。 [授業の概要] 表計算ソフトの操作に関して基礎的な技能を有し、日常業務において独力で表作成ができる基礎的な知識の習得を目指す。	
[授業内容] 【第 1 回】表作成の基本 表計算ソフトとは。データ入力の基本。 【第 2 回】基本的な入力、計算 計算式の入力。再計算と演算子。 【第 3 回】基本的な表の作成 罫線、表示形式、列幅、書式の変更、オートフィル 【第 4 回】基本的な関数 合計、平均、最大、最小、数のカウント。 【第 5 回】表示形式応用 小数点、%を含んだ表の作成 【第 6 回】グラフ基礎 グラフ作成の基礎 【第 7 回】絶対参照と相対参照 構成比率を計算する為のセルの固定（絶対参照）と相対参照の使い方。 【第 8 回】並べ替え 並べ替え、オートフィルタ、セルの結合 【第 9 回】表作成 今までの総合的操作の確認 【第 10 回】3 級検定対策 過去問題集を用いて 3 級合格程度の技能習得を目指す。 【第 11 回】3 級検定対策 過去問題集を用いて 3 級合格程度の技能習得を目指す。 【第 12 回】3 級検定対策 過去問題集を用いて 3 級合格程度の技能習得を目指す。 【第 13 回】3 級検定対策 過去問題集を用いて 3 級合格程度の技能習得を目指す。 【第 14 回】3 級検定対策 過去問題集を用いて 3 級合格程度の技能習得を目指す。 【第 15 回】期末テスト 前期の実力を確認するための期末テストの実施。	
[単位認定の方法及び基準] ・出席率・・・10% ・授業態度・・・10% ・期末テスト・・・80%	[使用テキスト、参考文献] 30 時間でマスター Office2003 表計算技能標準試験過去問題集

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和 1 年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体・メディカルトレーナー学科 (A・Bクラス)</p>																														
<p>〔年次〕 1 年次</p>	<p>〔講義期間〕 前 期</p>																														
<p>〔教育内容〕 講義</p>	<p>〔科目名〕 就職実務 I</p>																														
<p>〔時間、単位数〕 30時間 2単位</p>	<p>〔担当教員〕 渡嘉敷 智子 (実務経験あり)</p>																														
<p>〔授業の目的〕 就職面接に関する知識と効果的な対応の技量を習得し、実践の場での活用に繋げる。 また、自己表現のためのプレゼンテーション技法の向上を目指しビジネスマナーの基本を踏まえた理想的な社会人像を形成する。</p> <p>〔授業の概要〕 就職関連テーマを優先してテーマを設定する。プレゼンテーション及びコミュニケーション技法向上のためのテーマを設定し授業を展開する。 併せて、接客の現場への対応と第一印象アップに繋がるビジネスマナーの習熟を目指す。</p>																															
<p>〔授業内容〕</p> <table border="0"> <tr> <td>【第 1 回】 概要・方針</td> <td>: 講義内容と方針・ビジネスマナーの意義と活用方法</td> </tr> <tr> <td>【第 2 回】 第一印象の効用</td> <td>: ファーストインスピレーションチェック</td> </tr> <tr> <td>【第 3 回】 自画像作成</td> <td>: 周りから入手したデータを形にする</td> </tr> <tr> <td>【第 4 回】 プレゼンテーション</td> <td>: プレゼンテーション技法・自己紹介の実践</td> </tr> <tr> <td>【第 5 回】 発声の基本</td> <td>: 腹式呼吸法・滑舌・強弱の効用・アクセント・間</td> </tr> <tr> <td>【第 6 回】 発声の活用・応用</td> <td>: 自分の声のトーンを確立する・プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>【第 7 回】 挨拶</td> <td>: 挨拶の重要性・効果的な挨拶の方法・挨拶用語</td> </tr> <tr> <td>【第 8 回】 基本動作・応用動作</td> <td>: 立ち姿・お辞儀・物の授受など各種所作を整える</td> </tr> <tr> <td>【第 9 回】 表情・身だしなみ</td> <td>: 見た目の印象を整える・表情効果・身だしなみ項目</td> </tr> <tr> <td>【第 10 回】 言葉遣い・敬語</td> <td>: 敬語の基本・丁寧語・尊敬語・謙譲語</td> </tr> <tr> <td>【第 11 回】 言葉遣い・敬語</td> <td>: 差別用語・クッション言葉・敬語の変換ルールと応用</td> </tr> <tr> <td>【第 12 回】 言葉遣い応用・接遇用語</td> <td>: 職場用語・接遇用語・間違った使い方・社外への対応</td> </tr> <tr> <td>【第 13 回】 時事解釈</td> <td>: 知っておきたい一般教養・時事関連・ビジネス情報</td> </tr> <tr> <td>【第 14 回】 コミュニケーション技法</td> <td>: コミュニケーションの方法・活用・報告・連絡</td> </tr> <tr> <td>【第 15 回】 学期末テスト</td> <td>: 履修項目の確認</td> </tr> </table> <p>上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる</p>		【第 1 回】 概要・方針	: 講義内容と方針・ビジネスマナーの意義と活用方法	【第 2 回】 第一印象の効用	: ファーストインスピレーションチェック	【第 3 回】 自画像作成	: 周りから入手したデータを形にする	【第 4 回】 プレゼンテーション	: プレゼンテーション技法・自己紹介の実践	【第 5 回】 発声の基本	: 腹式呼吸法・滑舌・強弱の効用・アクセント・間	【第 6 回】 発声の活用・応用	: 自分の声のトーンを確立する・プレゼンテーション	【第 7 回】 挨拶	: 挨拶の重要性・効果的な挨拶の方法・挨拶用語	【第 8 回】 基本動作・応用動作	: 立ち姿・お辞儀・物の授受など各種所作を整える	【第 9 回】 表情・身だしなみ	: 見た目の印象を整える・表情効果・身だしなみ項目	【第 10 回】 言葉遣い・敬語	: 敬語の基本・丁寧語・尊敬語・謙譲語	【第 11 回】 言葉遣い・敬語	: 差別用語・クッション言葉・敬語の変換ルールと応用	【第 12 回】 言葉遣い応用・接遇用語	: 職場用語・接遇用語・間違った使い方・社外への対応	【第 13 回】 時事解釈	: 知っておきたい一般教養・時事関連・ビジネス情報	【第 14 回】 コミュニケーション技法	: コミュニケーションの方法・活用・報告・連絡	【第 15 回】 学期末テスト	: 履修項目の確認
【第 1 回】 概要・方針	: 講義内容と方針・ビジネスマナーの意義と活用方法																														
【第 2 回】 第一印象の効用	: ファーストインスピレーションチェック																														
【第 3 回】 自画像作成	: 周りから入手したデータを形にする																														
【第 4 回】 プレゼンテーション	: プレゼンテーション技法・自己紹介の実践																														
【第 5 回】 発声の基本	: 腹式呼吸法・滑舌・強弱の効用・アクセント・間																														
【第 6 回】 発声の活用・応用	: 自分の声のトーンを確立する・プレゼンテーション																														
【第 7 回】 挨拶	: 挨拶の重要性・効果的な挨拶の方法・挨拶用語																														
【第 8 回】 基本動作・応用動作	: 立ち姿・お辞儀・物の授受など各種所作を整える																														
【第 9 回】 表情・身だしなみ	: 見た目の印象を整える・表情効果・身だしなみ項目																														
【第 10 回】 言葉遣い・敬語	: 敬語の基本・丁寧語・尊敬語・謙譲語																														
【第 11 回】 言葉遣い・敬語	: 差別用語・クッション言葉・敬語の変換ルールと応用																														
【第 12 回】 言葉遣い応用・接遇用語	: 職場用語・接遇用語・間違った使い方・社外への対応																														
【第 13 回】 時事解釈	: 知っておきたい一般教養・時事関連・ビジネス情報																														
【第 14 回】 コミュニケーション技法	: コミュニケーションの方法・活用・報告・連絡																														
【第 15 回】 学期末テスト	: 履修項目の確認																														
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席率 50% 2. 授業態度 25% 3. 課題提出・定期試験による 総合評価 25% <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>自主編成教材 (テーマに応じて講師が資料を提供する)</p>																														

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>1年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>前期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>特別活動Ⅰ</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>新川 慶</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>クラスでの交流を通して学生の協調性や自主性を養い、 SOLAの学生である自覚をしっかりと身につけ行動出来るようにする。 今後の企業実習や就職活動に向けて学生の意識向上を目指す。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>クラスでの交流や他学年、他学科との交流を通して、多くの人とコミュニケーションをとり、 協調性や自主性を養う。企業説明会では、業界の仕事の種類について知り、 自分自身の今後の企業実習や就職活動へと繋げていく。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>渡嘉敷島研修、球技大会、企業説明会等を該当内容とする。30時間以上実施するが、 必要に応じて授業回数を延長する場合もある。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 授業態度…10% レポート提出…80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>自主編成プリント、資料</p>

授 業 概 要

<p>[年度] 令和1年度</p>	<p>[学科名] スポーツ整体メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次] 1年次</p>	<p>[講義期間] 後期</p>
<p>[教育内容] 講義</p>	<p>[科目名] 就職研修Ⅰ</p>
<p>[時間、単位数] 15時間 1単位</p>	<p>[担当教員] 大山敦史</p>
<p>[授業の目的] 業界の現状を把握し、2年次の企業インターンシップ先の選択や進路選択肢をひろげる。</p> <p>[授業の概要] 講師や企業を招き、会社概要や社会人としての心構え、必要とされる人材像等を講義して頂く。</p>	
<p>[授業内容] 講師や企業を招き、会社概要や社会人としての心構え、必要とされる人材像等を講義して頂く。 15時間以上実施するが、必要に応じて授業回数を延長する場合もある。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 授業態度…10% レポート提出…80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献] 自主編成プリント、資料</p>

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和 1 年度</p>	<p>[学科名] (A・B クラス)</p> <p>スポーツ整体メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>1 年次</p>	<p>[講義期間]</p> <p>後 期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>講義</p>	<p>[科目名]</p> <p>就職実務Ⅱ (実務経験あり)</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>渡嘉敷 智子</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>就職活動に関する知識と効果的な対応の方法を習得し、実践の場での活用に繋げる。 また、自己表現のためのプレゼンテーション技法を身につけ、ビジネスマナーの基本を踏まえた理想的な社会人像を形成する。 学習の成果として、ビジネス能力検定ジョブパス3級合格レベルの技量を培う。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>ビジネス能力検定を視野に入れつつも、ビジネスマナーや就職関連テーマを優先して展開する。 ビジネス能力検定3級テキストに基づいて授業を展開し、随時、確認テストで知識の定着を図る。 ビジネス能力検定終了後は、就職採用試験に向けて、就職対策に備える。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>【第 1 回】プレゼンテーション : 自己分析・目標設定を確認する</p> <p>【第 2 回】履歴書・自己PR文・志望理由 : 自己PR文および志望理由・履歴書の清書・完成まで</p> <p>【第 3 回】自己分析 : 「ジョハリの窓」の活用により自分の長所・短所を知る</p> <p>【第 4 回】面接の基本動作・質疑応答 : 面接における一連の動作・質疑応答の効果的な方法</p> <p>【第 5 回】ビジネス能力検定について : ビジネス能力検定の概要・試験内容・対策方法</p> <p>【第 6 回】キャリアと仕事へのアプローチ : 働く意識・仕事への取組み方・会社の基本とルール</p> <p>【第 7 回】仕事の基本となる8つの意識 : 顧客意識からコスト意識まで</p> <p>【第 8 回】コミュニケーションとマナー : コミュニケーションを支えるビジネスマナー</p> <p>【第 9 回】指示・報告・連絡・相談 : 指示を受けるポイント・報告・連絡の仕方</p> <p>【第 10 回】話し方と聞き方のポイント : ビジネス用語・敬語の種類と必要性・聞き方の基本</p> <p>【第 11 回】来客対応と訪問の基本マナー : 来客対応・面談・訪問マナー・名刺交換・紹介の仕方</p> <p>【第 12 回】年賀状・その他はがき : ビジネス年賀状の役割・留意点・喪中欠礼はがきなど</p> <p>【第 13 回】時節関連知識とマナー : 拝礼の作法・年末年始関連のマナー・その他関連知識</p> <p>【第 14 回】学期末テスト : ビジネス能力ジョブパス3級検定試験使用</p> <p>【第 15 回】解答・解説・弱点对策 : テストの解答と解説・ビジネス用語の解釈と用途</p> <p>※上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義することになる。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>1. 出席率 50%</p> <p>2. 授業態度 25%</p> <p>3. 課題提出・定期試験による 総合評価 25%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>財団法人専修学校教育振興会監修 「2019年版文部科学省後援 B 検ジョブパスビジネス能力検定3級公式テキスト」 「2019年版文部科学省後援 B 検ジョブパスビジネス能力検定3級公式試験問題集」 ・その他必要に応じて資料を提供する</p>

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>1年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>後期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>特別活動Ⅱ</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>新川 慶</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>1年次前期の経験を活かし、各々が率先して行動し、リーダーシップがとれるような人材を育成する。2年次の企業実習や就職活動へ向けて取り組んでいき、早い段階で実習先企業を選定出来るようにする。</p> <p>個人面談を通して、休学や退学を防ぐため取り組む。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>前期よりも企業説明会の実施を多くし、2年次の企業実習へ繋げることが出来るよう取り組む。体調面、精神面共に不調が出てくる時期でもある為、各々としっかりと向き合い、個人面談を行って学生の現在の状況をしっかりと把握する。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>企業説明会や企業実習に向けての取り組み、個人面談等を該当内容とする。30時間以上実施するが、必要に応じて授業回数を延長する場合もある。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 授業態度…10%</p> <p>レポート提出…80%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>自主編成プリント、資料</p>

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和 1 年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科 (A・Bクラス)</p>
<p>[年次]</p> <p>2 年次</p>	<p>[講義期間]</p> <p>前 期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>講義</p>	<p>[科目名]</p> <p>就職対策 I</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30 時間 2 単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>渡嘉敷 智子 (実務経験あり)</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>就職面接に関する知識と効果的な対応の技量を習得し、実践の場での活用に繋げる。 また、ビジネスの現場で必要不可欠なプレゼンテーション技法の向上を目指す。 併せてビジネスマナーの基本を踏まえた理想的な社会人像を形成する。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>就職採用試験に備えて、出願書類作成および面接の実践、活用に備える。 組織の一員として円滑に仕事を進めるために必要なビジネスマナーそして接遇マナー の習熟のためのテーマに取り組む。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>【第 1 回】 グループディスカッション I : 集団で結論に至る討論を体験し自分のスタンスを知る 【第 2 回】 グループディスカッション II : 集団における役割を遂行し組織の中の責任を体感する 【第 3 回】 仕事への取り組み方 : スケジュールと情報管理・ビジネスと IT・電子メール 【第 4 回】 ビジネス文書 : 文書の基本・社内外文書・各種文書・封書・葉書 【第 5 回】 電話応対 : ビジネス電話応対・掛け方・受け方・取り次ぎの仕方 【第 6 回】 統計・データの読み方 : 表とグラフの活用・新聞・インターネット・情報収集 【第 7 回】 会社を取り巻く環境 : 日本経済の基本構造・業種・業界の知識・近年の動き 【第 8 回】 日本経済の基本 : 経済環境の変化と求められる人材・ビジネス用語活用 【第 9 回】 確認ワーク : 試験…講師作成問題 …解答と解説 【第 10 回】 確認ワーク : 試験…講師作成問題 …解答と解説 【第 11 回】 学期末試験 : 履修項目の確認 …解答と解説 【第 12 回】 就職関連テーマ : インターンシップに向けて履歴書作成・各種書類作成 【第 13 回】 就職関連テーマ : 履歴書作成・各種書類作成 【第 14 回】 就職関連テーマ : 履歴書作成・各種書類作成・添え状作成 【第 15 回】 就労実習事前学習 : 接遇マナー・挨拶・言葉遣い・接遇用語・各種動作 ※上記の内容について学習するが、重要な項目については 2～3 回に分けて講義することになる</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>1. 出席率 50%</p> <p>2. 授業態度 25%</p> <p>3・課題提出・定期試験による 総合評価 25%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>財団法人専修学校教育振興会監修 「文部科学省後援ビジネス能力検定 3 級テキスト」 「文部科学省後援ビジネス能力検定 3 級試験問題集」 ※その他必要に応じて講師が資料を提供する</p>

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>2年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>夏期</p>
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>企業インターンシップ</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>大山 敦史</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>企業実習の事前挨拶や実際の現場での実習を通して、社会人としてのマナーやお客様との関わり方を少しでも多く学ぶ。</p> <p>学生自身の卒業後の進路を明確にする。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>実際に学生自身が興味のある企業に企業実習受け入れを依頼し、先方からの承認後に企業実習を行う。期間は二週間とし、二つの企業で企業実習を行っても良いものとする。</p> <p>実習先で毎日日誌を記入し、実習担当者からサインを貰う。実習終了後には実習先担当者からの総評を頂き、企業実習ノートを本学担当教員へ提出する。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>自身が希望した実習先で約二週間企業実習を行う。その際、一つの企業で二週間実習もしくは二つの企業で一週間ずつ実習のどちらを選択しても良いものとする。</p> <p>注意事項として、30時間以上の実習時間が無ければ単位取得は認めない。提出した企業実習ノートに実習先担当者の総評とサインが無い場合も単位取得は認めないものとする。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 企業実習態度…10%</p> <p>企業実習先評価…80%</p> <p>成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>企業実習ノート</p>

授 業 概 要

<p>〔年度〕 令和1年度</p>	<p>〔学科名〕 スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>〔年次〕 2年</p>	<p>〔講義期間〕 前期</p>
<p>〔教育内容〕 実習</p>	<p>〔科目名〕 特別活動Ⅲ</p>
<p>〔時間、単位数〕 30時間 2単位</p>	<p>〔担当教員〕 大山 敦史</p>
<p>〔授業の目的〕 1年次に身に付けた協調性や自主性を発揮し、渡嘉敷島研修や球技大会ではリーダーシップをとって周囲を引っ張ることのできる人材を育成する。 企業実習先でのマナー等をしっかり身に付け、同時に就職活動にも取り組む事で、就職内定率の向上を目指す。</p> <p>〔授業の概要〕 渡嘉敷島研修や球技大会でのリーダーとしての活動、周囲のサポート等を学生主体で考え行動するようにする。企業実習に向けての取り組みが主となるが、その際は学科内の教員で協力し学生をサポートしていく。必要であれば、面接練習等も行う。</p>	
<p>〔授業内容〕 渡嘉敷島研修、球技大会、企業説明会、企業実習事前準備等を該当内容とする。30時間以上実施するが、必要に応じて授業回数を延長する場合もある。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 出席率…10% 授業態度…10% レポート提出…80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 自主編成プリント、資料</p>

授 業 概 要

[年度] 令和1年度	[学科名] (A・B・クラス) スポーツ整体メディカルトレーナー学科
[年次] 2年次	[講義期間] 後期
[教育内容] 講義	[科目名] 就職対策Ⅱ
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 渡嘉敷 智子 (実務経験あり)
[授業の目的] 就職活動に関する知識と効果的な対応の方法を習得し実践の場での活用に繋げる。 就職面接対策を重点的に行い就職内定に繋げる。 また、仕事の現場での活用のため、プレゼンテーション能力とビジネスマナーの習熟を 目指し理想的な社会人像を形成する。 [授業の概要] プレゼンテーション能力向上に繋がるテーマに基づいて授業を展開する。 就職関連テーマ(履歴書・エントリーシート・添え状・面接)を優先して実施する。 接客の現場に応じたビジネスマナーの習熟を図る。	
[授業内容] 【第1回】コンセンサスゲーム : 合意に至るコミュニケーションの方法を体感する 【第2回】御礼状(手紙・封筒) : 企業実習先へ御礼状を作成し投函する 【第3回】第一印象を整える : メラビアン法の法則から・態度・表情・面接に備える 【第4回】言葉遣い(質疑応答) : 場にふさわしい言葉使い・質疑応答の方法・敬語 【第5回】電話応対 : 就職のための電話・ビジネス電話ケーススタディ 【第6回】自己PR(面接に備える) : 自分のセールスポイントを確立する・自己PR文作成 【第7回】履歴書・添え状 : 就職本番の履歴書作成・添え状・添削・アドバイス 【第8回】模擬面接 : グループ面接…全体の講評と個別アドバイス 【第9回】模擬面接 : グループ面接…全体の講評と個別アドバイス 【第10回】模擬面接 : グループ面接…全体の講評と個別アドバイス 【第11回】模擬面接 : グループディスカッション…講評・アドバイス 【第12回】模擬面接 : グループディスカッション…講評・アドバイス 【第13回】職場のマナー・慶弔知識 : ビジネスマナー・各種封筒(祝儀・不祝儀)・表書き 【第14回】案内・上席・来客対応 : 接客関連動作・知識・お茶の出し方・その他接客関連 【第15回】学期末試験 : 履修項目の確認 ※上記の内容について学習するが、重要な項目については2～3回に分けて講義する	
[単位認定の方法及び基準] 1. 出席率 50% 2. 授業態度 25% 3. 課題提出・定期試験による総合評価 25% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 自主編成教材 テーマに応じて講師が資料を提供する

授 業 概 要

[年度] <p style="text-align: center;">令和 1 年度</p>	[学科名] <p style="text-align: center;">スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
[年次] <p style="text-align: center;">2 年</p>	[講義期間] <p style="text-align: center;">後期</p>
[教育内容] <p style="text-align: center;">実習</p>	[科目名] <p style="text-align: center;">特別活動IV</p>
[時間、単位数] <p style="text-align: center;">30時間 2単位</p>	[担当教員] <p style="text-align: center;">大山 敦史</p>
[授業の目的] 社会人としてのマナーや仕事との向き合い方などをしっかりと伝えることで、現場で活躍し、今後の県内外の業界を担う人材を育成する。 [授業の概要] 企業実習を終え、就職活動に取り組んでいる学生のフォローアップを行う。 就職が内定した後の事も踏まえ、卒業生の講話等も実施しながら、学生各々にアプローチをする。	
[授業内容] 企業説明会や就職活動への取り組み、個人面談等を該当内容とする。30時間以上実施するが、必要に応じて授業回数を延長する場合もある。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 授業態度…10% レポート提出…80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 自主編成プリント、資料

授 業 概 要

[年度] 令和 1 年度	[学科名] スポーツ整体・メディカルトレーナー学科
[年次] 1 年	[講義期間] 前期・後期（通年）
[教育内容] 実習	[科目名] 学校行事
[時間、単位数] 30時間 2単位	[担当教員] 新川 慶
[授業の目的] クラスでの交流を通して学生の協調性や自主性を養い、 SOLA の学生である自覚をしっかりと身につけ行動出来るようにする。 [授業の概要] 新入生歓迎球技大会や学園祭などの事前準備や当日の運営などを行う。	
[授業内容] 新入生歓迎球技大会や学園祭などの事前準備や当日の運営などを行う。	
[単位認定の方法及び基準] 出席率…10% 取組む姿勢…10% レポート提出…80% 成績は学則に準じて評価する。	[使用テキスト、参考文献] 自主編成プリント、資料

授 業 概 要

<p>[年度]</p> <p>令和1年度</p>	<p>[学科名]</p> <p>スポーツ整体・メディカルトレーナー学科</p>
<p>[年次]</p> <p>2年</p>	<p>[講義期間]</p> <p>前期・後期(通年)</p>
<p>[教育内容]</p> <p>実習</p>	<p>[科目名]</p> <p>学校行事</p>
<p>[時間、単位数]</p> <p>30時間 2単位</p>	<p>[担当教員]</p> <p>大山 敦史</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>クラスでの交流を通して学生の協調性や自主性を養い、 SOLAの学生である自覚をしっかりと身につけ行動出来るようにする。</p> <p>[授業の概要]</p> <p>新入生歓迎球技大会や学園祭などの事前準備や当日の運営などを行う。</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>新入生歓迎球技大会や学園祭などの事前準備や当日の運営などを行う。</p>	
<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席率…10% 取組む姿勢…10% レポート提出…80% 成績は学則に準じて評価する。</p>	<p>[使用テキスト、参考文献]</p> <p>自主編成プリント、資料</p>